

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年5月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675700100
法人名	有限会社 エミ企画
事業所名	グループホーム くりの
所在地	鹿児島県始良郡湧水町米永181番地1 (電話) 0995-74-1220
自己評価作成日	平成24年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

目の前には、栗野岳の山々や川内川もあり、自然に恵まれた環境に位置しています。2階へ続く階段は、ぬくもりのある一枚板を使用し、緩やかに移動しやすい作りになっています。敷地内には、多目的ホール「ふるはうす」があり、誕生会や敬老会などを行っています。地域からの要望があれば、いつでも開放出来るよう呼びかけております。基本理念、活動目標の理解に努め、自然と笑顔のあふれる対応を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、公共施設が点在する街の中心地に近く利便性に富んでいる。また、自然にも恵まれた環境にある。
- ・1～2階の各ホールと広々としたベランダが繋がっており、災害時などにはスムーズに避難できるよう整備されている。
- ・敷地内には多目的ホール「ふるはうす」があり、誕生会や敬老会などの行事の他に、中学校との交流会などにも利用している。また、近隣の住民や行政へ「ほほえみ通信」を配布し、理解を深めている。近所の人々が気軽に遊びに來たり野菜の差し入れがあり、地域との交流やつながりを大事にしている。
- ・代表者と管理者は、職員の意見や提案を積極的に聞き、運営に反映させている。また管理者や職員は、利用者の今までの家庭や地域での暮らしが継続できるように配慮し、ケアへの対応等のさらなる向上をめざしている。
- ・利用者は、職員と一緒に洗濯物を干したり、個々人の楽しみ事をしたりしながら、ゆったりと生活している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員会議や毎朝の朝礼時に皆で三唱し、理解に努めている。	ホーム独自で作りあげた理念を朝礼時に唱和し、職員会議やケア会議等で具体的な話し合いを行い、ケアにつながるように、理念の共有と実践を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地域の行事に参加し挨拶を交わしたり、定期的に発行している「ほほえみ通信」を近隣の住民や関連の行政や地域に届けたりしながら交流に努めている。	地域の消防後援会に加入し、地域行事に積極的に参加している。中学生の職場体験の受け入れやホーム便りを利用者と一緒に近隣に配布したりして地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の交流センターにて、利用者の作品展示や中学生の体験学習受け入れなどを通じて、地域社会への認知症の理解、アピールに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、運営体制・入居者状況・サービス内容・地域との関わり方等を報告しそれについての意見を受け入れ、サービスの向上に活かしている。	会議は定期的に行われ、外部評価の報告や事業運営の報告がなされている。出会者から理解と協力を得ると共に、そこでの意見をサービスの向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月、町主催の研修・地域包括支援センターの研修に参加することで行政とも連絡を取り合い指導や協力・支援を頂いている	認定更新の機会等にプランの見直しの相談や情報交換をしてアドバイスを貰っている。町主催の研修会に参加したり、ホームの敬老会や交流会に参加してもらい、意見や協力を得て連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を開き研修を行っている。外出傾向にある利用者に対しては、付き添い散歩の機会を増やし施錠は行っていない。	身体拘束廃止委員会で計画を立て、研修会を行ったり、職員会議の中でも取り組んでいる。事故防止のための身体拘束については、家族に説明して同意書もらうように検討している。昼間、玄関は施錠せず、一緒に外出したり散歩したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで定期的に勉強会を開いており防止に努めている。身体的な虐待のみならず、言葉の虐待もある事を全ての職員が周知し、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会等に参加して学ぶ機会を持っています。研修後に、ホーム内研修などで、勉強し制度の理解につなげている。現在のところ必要とされる利用者はいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時に契約書や重要事項説明書を読み合わせしながら確認作業をしており、疑問点や不安などの質問等応じつつ納得や理解に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>全職員、面会時はいつでも疑問点や要望等にこたえる努力をしている。また、その時にお答え出来ない事は、後日お答えするようにしている。職員が共有できるように連絡帳や会議等で伝えている、又家族への連絡ノート等で面会時に確認をして頂いている。</p>	<p>年1回の家族会や家族との交換ノート等で家族の意見を貰う機会を作っている。また、家族の訪問時に意見を聞くようにしている。出された意見・要望等は職員会議で話し合い、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>代表者は随時、全職員と面接したり、管理者は日常業務の中で職員との意見交換などを行い、それを代表者に伝えるなどしながら運営に反映させている。</p>	<p>代表者は年2回、個別に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は日常業務の中で職員の意見や提案を聞き、代表者と話し合い、運営に活かしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は個々の職員の勤務状況や実績等を代表者に報告し、処遇改善に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は、個々の希望に応じて参加調整行っている。ホーム内の研修も毎月テーマを変えて多分野の研修を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月の町主催の会議への参加などで、他施設との意見交換や外部研修などで知り合った他GHの管理者を通じてお互いのGHを訪問見学している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始段階では、本人の不安や困っている事など訴えは、ほとんど無い為、日常の会話から少しずつ色々な会話ができるように関係性を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始前の面接時、ご家族の不安、要望を聞き取り安心できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の困り事、こうなって欲しいという要望など十分に聞き取り、状況を把握した上でケアプランを作成している。説明時にも不足や要望は無いかを確認し修正可能な事をお伝えし納得出来る段階で、同意を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、出来ないことを見極め「もし利用者が自分の家族だったら・・・」という思いを念頭に置いてケアにあたっている。理念に沿った家族の一員であるという認識を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時も居心地のよい、何でも言い合える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に対しては、本人の居室やリビングなどで面談をするなどの気を遣わず滞在できる雰囲気作りを努めている。散歩途中で、知り合いの方と会った時には一緒にホームへ案内するなど、気軽に立ち寄って頂けるような関係作り努めている。	地域で暮らす馴染みの知人や行きつけの理・美容院などとの関係を継続できるよう支援している。家族の協力も得て墓参りも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの利用者が居室に籠る事なくリビングで過ごされている。新しく入居された利用者に対しても、輪の中に入りやすいよう話題を広げて、楽しく笑顔で過ごせるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族から手紙を頂いたり、現状を教えて頂ける関係がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の思いや希望を大切にしながら、その人らしい生活を送れるように支援しているが、安全面を考えすぐに希望に添えない時がある。	日々の関わりの中で様子を観察し、表情や言葉などから思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合、家族から情報を得て意向の把握に努め、職員間で話し合い、利用者の視点で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時や、本人との会話の中から、これまでの生活環境、本人が望むことなどを把握しサービス提供をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態に合わせた対応をしている。また出来る事、出来ない事、出来そうな事を把握しサービス提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時は、利用者・家族に聞き取りを行うと共に関係者からも意見を求め現状に即したケアプランを作成している。モニタリングは、毎月のケア会議の中で全スタッフと行い、現状の把握につとめている。	本人や家族の意向を汲み取った上で、ケア会議で協議し、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にバイタル・食事量・水分摂取量・排泄等についても記録し、健康状態の把握に努めている。又、1日の様子を記録しプランの見直しに活かしている。朝夕2回の申し送りにて、情報や異変の把握につとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望等を十分に聞き取り、日々の変化から予測される事をお伝えし、不満の生じないケアを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や地域の民生委員、町議の方々に相談したり、援助を頂いたりしながら本人の生活を支えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院については入所時に、ご家族と相談し、かかりつけ医を選択している。月1回の受診や往診を受けるなど、ご家族の安心を得る支援をしている。また、必要に応じて、職員が通院同行する場合もある。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。基本的には眼科も含めて月1回の往診となっており、歯科は、必要に応じての往診となっている。その他の通院は家族の希望による支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>特変時には、ホーム内の看護師に相談し、受診や往診、場合によって救急搬送等に対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族と連絡を取りつつ、早期退院に向けての働きかけをし、それに対する対応が出来る事をお伝えし、早期退院に繋がった例もある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の対応について、事前確認書を作成し自分の思いが言えるうち、又はこのように話していたなど、家族・本人の意向を定期的に確認をしている。又、終末期に近づきつつある利用者に関しては面会の度に、ご家族に説明をしている。</p>	<p>入居時に、事業所としての終末期や重度化に伴う対応の指針を家族に説明し、同意書をもらっている。状況変化に応じ、繰り返し家族と話し合い、随時意思を確認している。職員全員がその方針を共有し支援している。既に看取りの経験がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルに沿って対応している。又、避難訓練時に、応急処置・応急手当の訓練に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署の指導の下に避難訓練を実施している。</p>	<p>年2回消防署の指導を得て、2階から1階に降りる訓練と、夜間のベランダに避難する訓練を重点的に実施している。火災発生時には、地域住民や隣接している企業に協力依頼をしている。食糧の備蓄はある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方に不快感を与えないように入浴や排泄・更衣の時は声の音量を下げたり、本人に分かる伝え方など羞恥心や尊厳に配慮したケアを心掛けている。	職員は、事例をもとに研修を重ね、日々のケアの中で、利用者の尊厳とプライバシーに配慮しながらさりげないケアや言葉かけに努めている。職員の採用時、個人情報保護についての誓約書もとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望や希望の訴え可能な利用者への対応は、比較的容易であるが、思いを伝えられない利用者に対しては、表情や言動で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物干しや調理など、声を掛けるが、強制はせず出来るところまでの、本人のペースに任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームでに散髪や、髪を結うなど行っている。同じ衣類を着用されている時には、色々な衣類を見比べて頂き、本人が選んで着用されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族や近隣の方から旬の食材を頂いたり、利用者の嗜好調査しながらメニューに取り入れている。食事の準備から、片付けまで利用者の方が手伝って下さる日もある。	利用者と一緒に菜園で採った野菜や近所からの差し入れを食材に、希望を聞いて献立を作り後片付けなど一緒に行っている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み、会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて、水分摂取量・食事摂取量など把握できている。又、摂取量が少ない時には、本人が飲みたいもの、食べたいものを取り入れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の嗽や、口腔ケアと、夕食後は、義歯を預かり洗浄消毒し翌朝渡すようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	前回の排泄時間を考慮し、声かけ誘導を行い、失敗の回数を減らし紙パンツから布パンツへなった方もいらっしゃる。汚染時も、羞恥心に配慮した声掛け対応を行っている。	自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大切にしている。排泄チェック表を活用し、排泄の自立を支援している。入居時のオムツ使用者も布パンツ使用に移行でき、利用者や家族から喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使ったメニューを心掛けています。又、水分を多く取って頂く、散歩などで動く機会を多く設けるなどしている。頑固な便秘症の方に対して、かかりつけ医の指導助言を受けつつ個別対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	24時間対応できる入浴設備があり、利用者の体調や希望に添って実施している。入浴拒否の利用者には、時間を置いて再度声掛けや翌日改めて対応するなどの支援をしている。	入浴は24時間対応できる設備を活用し、利用者の希望を尊重して実施している。一人ひとりのペースで入浴を楽しめるように支援し、気の合う人と希望により一緒に入ることもでき、気分よく入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が、自分のペースで休息や睡眠が出来るような支援をしている。夜間、片付けなど夢中にされている時には、無理に入眠を促さず見守り、本人のペースに合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、薬の説明書を貼付しており必要時は確認しながら対応している。又、薬が変更や追加になった場合は、連絡帳や申し送りなどで周知し、状態の変化を個人記録に記載するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり布団干しや食事の配膳下膳等、各利用者の出来る事や、得意分野を活かし生活出来るような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望で、自宅や墓参りに出かけたり、ホームでも地域の行事に出かけたりしている。</p>	<p>日常的には、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、散歩や買い物などに出かけられるように支援している。車椅子専用車も準備している。年間計画を立て花見等に出かけている。家族の支援をもらって自宅訪問や墓参りにでかけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの利用者は、現金所持していないが、必要なものなどについて、家族と相談しながら、本人の希望の物を購入している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の要望には、随時応じている。携帯電話所持の利用者についても着信などを確認しながら交流が続けられるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同空間には、多くのソファやベンチを配置し、気の合う利用者同士で思い思いの場所で過ごされている。季節の花を飾ったり、その季節に応じた室内飾りの工夫をしている。</p>	<p>リビング兼食堂は季節の花が飾っており、利用者の作品や写真などが展示されている。ソファやベンチがあり、ゆっくりと落ち着いてすごせる環境になっている。敷地内には多目的ホールもあり誕生会などが実施されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファーに横になったり、気のあった利用者と一緒に過ごしたりと、思い思いの時間を過ごしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時、家族の方へ昔から使い慣れている物や、思い入れのある物など持ってきてもらうようお願いしている。</p>	<p>居室入り口には、名前と顔写真があり自分の部屋が分かるようにしている。居室はベッドが設置されており、本人の使い慣れた家具や家族の写真等が飾っており、好みの物を身近に置き、安心して暮らせる配慮をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室前には、本人家族の同意を得て、名前・顔写真を貼り自分の居室と分かるようにしてある。室内の様式替えなど、本人が動きやすいように納得の上で行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない